

令和元年度 福岡市総合教育会議

○日 時

令和元年11月13日(水) 午前10時30分～11時30分

○場 所

福岡市役所本庁舎15階講堂

○出席者(7名)

市長 高島 宗一郎

教育委員会 星子 明夫(教育長)

木本 香苗 町 孝

菊池 裕次 原 志津子

武部 愛子

○事務局

[総務企画局] 総務企画局長 企画調整部長

[教育委員会] 教育次長 理事

総務部長 教育環境部長

教育支援部長 指導部長

教育センター所長 事業管理部長

議事次第

1 開会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 議事

(1) 協議事項

ア 令和元年度 取組みの進捗報告

- ・福岡市立中学校における標準服のあり方検討について
- ・SNS(LINE)を活用した教育相談
- ・小中学校における医療的ケア支援

イ 今後の方向性

- ・児童生徒の学力向上の取組み
- ・福岡市の特色ある教育
- ・教育環境整備

(2) その他

5 閉会

○協議・調整が行われた事項

(1) 協議事項

ア 令和元年度 取組みの進捗報告

①福岡市立中学校における標準服のあり方検討について

教育委員会から、標準服見直しの背景や新しい標準服の価格について説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・報道を含め、性的マイノリティへの適切な配慮がなされており、生徒が自由に選べる環境になったことが良かった。
- ・検討プロセスに生徒が参加したことで、より良い標準服となった。

②SNS（LINE）を活用した教育相談

教育委員会から、LINEを使った教育相談の主な内容や件数について説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・いじめに関する相談もあったことから、児童生徒がSOSを出し易い環境の整備と関係部署等への円滑な連絡体制を構築することが肝要である。

③小中学校における医療的ケア支援

教育委員会から、学校生活の流れの中で無理なく医療的ケアが実施できていること、周囲の児童生徒も理解を示していること、医療的ケアを必要としている児童生徒の自立心の育成に寄与できていることなどを説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・医療的ケア児を持つ保護者の負担が軽減できている。
- ・教師の安心感が児童らに良い影響を与えることに期待したい。

イ 今後の方向性

①児童生徒の学力向上の取組み

教育委員会から、学力向上を図る各種取組の成果が出てきていること、今後、ICTの活用の幅をより広げる整備を行っていくことなどを説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・子どもたちの頑張りもあり、良い結果が出ているのだろう
- ・「ふれあい学び舎」事業が、参加している児童の学力向上に繋がっているのであれば、課題もあろうかと思うが拡充を考えるべきである。
- ・教育委員会は、ICTの活用を含め、教員の指導力の底上げを支援すべきである。

②福岡市の特色ある教育

教育委員会から、「ICTを活用した教育活動の充実」のために大規模な環境整備を行うことを説明するとともに、プログラミング教育のデモンストレーションを行い、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・ICTでしかできない形の授業の工夫ということを心掛けていただきたい。
- ・今後、エンジニアの不足が進むので、興味を持っている子どもを伸ばしてあげられるよう支援する必要がある。
- ・ハードウェアの整備のみならず、教員のフォローアップにも注力すべき。

③教育環境整備

教育委員会から、小中学校の空調整備状況や使用状況の説明、並びに、特別教室等への空調整備の必要性について説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・授業に支障をきたしている状況であり、早急な対応が必要。
- ・学校は、災害時の避難所としての機能も有しているため、導入可能性を引き続き検討してもらいたい。

(2) その他

特になし

発言者	発言内容
企画調整部長	<p>はい、少し時間が早いですけれども、お揃いでございますので、これより、令和元年度福岡市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>それでは開会にあたりまして、高島市長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
高島市長	<p>皆さま、おはようございます。</p> <p>教育委員の皆さま方には日頃から本市の教育行政に大変ご尽力いただいていることに、この場をお借りいたしまして、改めて感謝を申し上げたいと存じます。</p> <p>昨日のことですけれども、八戸で子どもが切りつけられるという事件が発生しております。本当に痛ましい事件です。</p> <p>福岡市でも今、民間企業の皆さんと連携をして、子どもたち全員に小さなデバイスを配ってですね。子どもに万が一があったときか居なくなったときに、すぐに場所が分かるような取組がスタートしたのですが、やはり通学路、その見えない場所でのこうした事件をどう防げばいいのかというのは非常に大きな課題ですし、こうした一つ一つを教訓にしながら、我々の福岡市の子どもたちを守る対策にも繋げていくことが肝要かなというふうに考えてございます。</p> <p>さて、この総合教育会議でございますが、市と教育委員会が意思疎通をしっかりと深めていきまして、教育の課題、あるべき姿というものを共有しながら、教育行政をより良いものにしていこうということで開催しているわけでございます。</p> <p>昨今、子どもたちを取り巻く環境というものは大きく変化をしてくれています。一番大きいのはスマホの登場です。そういうネット環境というものが大きく異なってくるのだらうというふうに思っております。</p> <p>そうした意味では、親世代が経験をしていないようなことを子どもたちは経験をしているわけで、なかなかそこにどのようにアプローチをしていけばいいのか戸惑っている保護者の方もいらっしゃるかもしれません。</p> <p>逆にただ私たちはこうしたものをうまく利用しまして、子どもたちがSNSを活用しているということで、例えばLINEを使った相談窓口というものを新しく、今年度スタートいたしました。というのも、今年度の当初予算は「サポートが必要な子どもたちのために」というテーマとしておりまして、そこでこのような取組をスタートしたわけでございます。</p> <p>他にも冒頭でも触れましたけれども、子どもたちに小さなデバイスを配って、これを普段持ってもらうことによって通学路での安全を守っていこうという取組でしたり、それから小・中学校で医療的ケアが必要な子どもたちを受け入れるための学校看護師の配置といった取組もスタートいたしました。さらに、小・中学校入学準備金を充実する。</p> <p>こんなことをいたしまして教育分野の強化を図ってきたわけでございます。</p>

	<p>す。</p> <p>今日は会議の中でこうした取組のうち特に重要な部分について進捗を是非、お聞かせをいただきたいというふうに思っております。また、今後の学力向上の取組やそれから特色ある教育、また教育環境の整備などについても、いろいろと意見交換できればというふうに考えてございます。</p> <p>目の前には新しい標準服がざっと並んでいます。70年ぶりに変更されるということで、教育委員会の皆さんと子どもたちが一緒になって、新しいものができたということです。これもこの総合教育会議の中でご議論いただいたことが形になったということで非常に良かったなというふうに思っております。</p> <p>では、本日もどうぞよろしくお願いをいたします。</p>
企画調整部長	<p>続きまして、星子教育長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
星子教育長	<p>それでは、教育委員会を代表いたしまして、ひとことご挨拶を申し上げます。</p> <p>令和最初の年でございますが、福岡市の教育も第2次福岡市教育振興基本計画が完成しまして、新たなスタートの年となっております。「やさしさとたくましさをもち ともに学び未来を創り出す子ども」を目指す子ども像に掲げ、その実現に向け教育委員会一丸となって取組を進めております。</p> <p>この2次計画は前計画に引き続きまして、市長が策定する「教育の振興に関する施策の大綱」を兼ねるものとなっております。先ほど市長のご挨拶にもありましたとおり、まさに市と教育委員会がスクラムを組んで、その推進を図っていくことが大切であると考えております。</p> <p>さて、本日でございますが、先ほどもお話がございました標準服検討の報告に加えまして、今年度、市長に後押しをいただき実施しております「LINEを活用した教育相談」と「小・中学校における医療的ケア支援」の取組状況についてご報告したいと考えております。</p> <p>さらに、来年度から小学校で。また、令和3年度からは中学校で新しい学習指導要領がスタートいたしますが、その中で「主体的・対話的で深い学び」が強く打ち出されております。学習内容やそのツールも変化する中で、本日は「ICTの活用」や「プログラミング教育」について、市長にも実際にタブレット端末を体験いただきたいと考えております。</p> <p>市長と意見を交換し、教育行政のさらなる前進と充実につなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。</p> <p>また、八戸市の事件に関しましては、女子児童の一日も早い回復を心から願っております。また、加害者が中学男子生徒ということでございますので、様々な背景もあろうかと考えられます。それらの情報を収集いたしまして、福岡市の子どもたちのさらなる安全安心のために努めてまいりたいと思っております。</p>

	私からは以上です。
企画調整部長	<p>それでは議事に入ります。</p> <p>本日は次第にありますとおり、大きく2つの協議事項について意見交換を予定しております。</p> <p>1つ目の協議事項「取組の進捗報告」につきましては、3つの項目をまとめて教育委員会からご説明をいただいた後、意見交換を行うという形をお願いいたします。また、2つ目の協議事項「今後の方向性」については、項目ごとに教育委員会から説明をいただいたのち、意見交換を行うという形で進めてまいりたいと考えております。</p> <p>なお、会議終了は11時30分頃を予定しておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、1つ目の協議事項「令和元年度取組の進捗報告」でございます。教育委員会事務局からご説明をお願いいたします。</p>
指導部長	<p>資料1をお願いいたします。令和元年度取組で3つの事業について、進捗報告をさせていただきます。</p> <p>まず、福岡市立中学校における標準服のあり方検討につきましては、先ほど市長のご挨拶でもご紹介いただきましたように、新しい標準服を会場に展示しております。70年ぶりの全面的な見直しとなっております。</p> <p>見直しの背景としましては、近年の気温上昇や国際化、性的マイノリティなどの社会的課題や変化への対応などがあり、有識者だけではなく、生徒の目線での検討を行ってまいりました。</p> <p>来年、令和2年4月の入学式では、65校の中学校でいよいよ新しい標準服を着用し、新入生が登校いたします。</p> <p>なお、残りの4校ですが、1校は校舎の新築に併せて標準服を一新した中学校。1校は市に先駆けて標準服を検討・採用した学校。残り2校は、地域関係者や保護者などから独自の標準服を望む意見が多く寄せられたために独自の標準服を選択した学校となっております。</p> <p>また、新しい標準服の価格につきましては、本日展示されているものをご覧いただきますと良い素材を使用しており、高いのではないかとおられるかもしれませんが、保護者の経済的負担にならないように、これまでの詰襟、セーラー服の価格と同等の価格帯に収まっております。</p> <p>次にSNS、LINEを活用した教育相談について説明いたします。</p> <p>もともと福岡市においては教育相談に力を入れており、福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーや心理の専門家であるスクールカウンセラー、登校支援などをする児童生徒の専従対応をする教員、いわゆる不登校対応教員の3者がチーム学校として子どもたちの支援に取り組んでいるところでございます。</p> <p>それらに加え、若年層へのスマートフォンの普及やコミュニケーションの手段がSNS中心になっている現状を踏まえ、LINEを活用した教育相</p>

	<p>談を開始いたしました。</p> <p>面談が苦手だけど誰かに悩みを相談したい子ども、なかなか声を挙げられない子どもなどを早期に発見し、適切かつ円滑な対応に繋げていくことを目的に取り組んでいるところでございます。</p> <p>最後に「小・中学校における医療的ケア支援」につきましては今年度、小学校に学校看護師を配置し、児童の医療的ケアにあたってまいりました。児童が安心して通学できるように、また、保護者の負担が少しでも軽減するように、今後も継続的な体制について、検討を続けていきたいと考えております。</p> <p>令和元年度の取組の進捗報告の説明は以上となります。</p>
企画調整部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、意見交換をお願いいたします。</p>
高島市長	<p>いずれの項目もしっかり取組を進めていただいているということで安心したわけでございます。</p> <p>標準服のあり方につきましては、2年前のこの会議で皆さんと意見交換を行ったわけでございますが、本当に形になりましたし、また、かっこよくなって良かったと思います。</p> <p>男女問わずにどんな形でも選択をできるというので、これはLGBTということもあったのですが、今日マスコミの方もいらっしゃいますが、これを前面に出した形で報道してしまうと、女性で例えばズボンの方を選んだ人はLGBTだというふうにならないように、そのLGBTというところを前面に出さない形で報道に配慮をお願いしておりました。それは報道の皆さんも配慮いただいたおかげで、この新しい制服ができたときに、本当に自由に選んでいいですよという形が前面に出たので、選ぶ方も自由に選んでいただける環境になったというふうに思っています、本当に良かったなと思います。</p> <p>この件について、例えばその生徒とか保護者の声とかいうのがもしあれば、教えていただければと思います。</p>
指導部長	<p>こちらから失礼いたします。</p> <p>サンプル展示会や生徒による検討委員会がございまして、その中で出された意見について紹介をさせていただきます。</p> <p>まず生徒による声としましては、「軽い」や「脱ぎやすい」というような意見。また、「反射材が付いていて、夜の下校時も安全である」という意見。また、校外では名札が隠せるようになっていきますので、「隠せるのが良かった」という意見がありました。また、保護者からは「女子がスカート、キュロット、ズボンを選択できるようになったのはいい」とか、「ストレッチの素材がいい」、「洗濯もしやすいだろう」というような意見。また、博多織伝統の献上柄が福岡らしいとか、市章ですね、福岡市の市章を入れておりますデザインが、「ボタンのデザインがいい」というような意</p>

	見があがっておりました。
高島市長	それからですね、LINEのほうでは相談受付件数が217件というふうになっていますが、これは具体的に例えばどういう相談が多かったとか、言える範囲内で教えていただければと思います。
指導部長	相談内容につきましては友人関係や自分の心や体に関することなどが多くございました。また、いじめ等に関することもありました。その他、教職員との関係とか、学業のこと、恋愛といった相談もありました。 また、性別では男子より女子が多く、男子が36名に対し女子が176名、不明が5名になりますが、女子のほうが多い傾向にございます。 学校ごとでは小学校が26件、中学校が166件と、また高校は15件ということで、中学校が圧倒的に多いという状況でございます。 以上です。
高島市長	今お話の中で、いじめ関係の相談もあったというふうに話がありましたが、それは教育委員会としていじめについての対応をするというのは、もちろん職務の範囲内ですのでしっかりとやっていただきたいと思えますし、同時に親からの虐待分野についても、教育委員会というより保健福祉局所管の話ではあるけれども、SOSを発する部分って意味で、このLINEとかの中でも家の中で居場所がないので、学校でそういうふうなSOSみたいなものが出てくるとか、まずは出やすい環境をここでそういう話をしてきたよという出しやすい環境を作っていただきたいし、そういうものがあつたときはですね、スムーズに担当に繋いでいただくなど、そうしたその学校外での虐待的な話もしっかり見逃さないようにぜひよろしくお願いいたします。 それから、医療的ケア児についてですが、保護者からの声を聞くと非常に良かったという話で良かったなと思えますが、実際に子どもたちの教室での様子とかどんな感じでしょうか。
指導部長	子どもたちの様子につきましては、学校生活の流れに応じまして、必要な医療的ケアを学校看護師が行っている状況でございます。無理なく授業等に参加できているというふうに把握しております。 また、自分の体の状況、状態等に気づいて、自ら医療的ケアを行う場所に行つて、例えば「吸引お願いします」と学校看護師に伝える姿が見られております。保護者が医療的ケアを実施しているときよりも、自分できちんと管理するっていう自立心が高まった姿が見られて良かったと思つているところでございます。また加えて、周りの子どもたちも理解を示して、医療的ケアの時間になると声をかけて教えてくれるなど、「優しい心」、「思いやりの心」の育成にも繋がっているというふうにとらえております。 以上でございます。
高島市長	周りの子どもたちとはいい感じになっているというのはとても良かった

	<p>なというふうに思いますし、そういう医療的ケアの子どもたちを含めて近くにいろんな人が当たり前にいる環境ができるといいですね。</p> <p>私から以上ですが、教育委員の方からご意見等がございましたらお願いします。</p>
武部委員	<p>はい。医療的ケアのお子さんたちについて、学校現場でたくさん向き合ってきていますが、保護者の方がかなり、ほとんど終日、別室で待機されていたりということが今までだったのですが、それがまず無くなったということで、お家の方がまずとっても楽になられたというのと、何よりも学校の先生、教師が安心ですね。何かあったら、そこに繋げる、学校の中で繋がられる。</p> <p>命に関わることですから、そういう意味で先生方の安心という気持ちが子どもたちにすごく良い影響を与えていくんじゃないかなというふうに期待しています。</p>
木本委員	<p>医療ケアとは別件なのですけれども、制服の件で一言。</p> <p>保護者としては、今回のスタイリッシュな制服ということで価格面が非常に気になっていたのですが、かなりメーカー側と協議を重ねて、値段的にも現在の標準服と同等ということ。そして子どもたちが今回、製作プロセス、検討委員会ですね、入ってもらったことで私もなるほどって思っただけですけれども、男子学生が手許に付いているボタンが当たってカチカチするっていう音の件を触れてくれて、結果そのボタンが無い形が採用されたんですね。</p> <p>下に展示されていますけれども、実はそのネクタイとかのカラー、色もですね、学校カラーに応じてとかそのような形でいろんな選択肢が増えていきます。</p> <p>来年の4月からまたこういう新しい制服が市内のあちこちで見られるっていうのは楽しみかなっていうふうに思っています。</p>
武部委員	<p>もうひとつだけ。</p> <p>L I N Eの件なのですけれども、昨日の事件のことがありましたので、L I N Eで相談して解決というところに行きつくかどうか分からないんですが、気持ちを言語化するというのもすごく大事で、言語化できると行動化しませんので、聞いてもらおう。それがいつも誰かがいるわけではないけれども、L I N Eに誰か、L I N Eで誰かに聞いてもらえる、言葉にできるということは、加害者側の主張を治めていくということにはすごく役に立つと思うので、そういう意味で、そういうことを意識したL I N Eの活用というものをこれから考えていけるといいかなと思っています。</p>
高島市長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>では次の協議事項をお願いします。</p>
企画調整部長	<p>はい。続きまして、2つ目の協議事項でございます。</p> <p>「今後の方向性」の「児童生徒の学力向上の取組」につきまして、教育委</p>

	員会事務局から説明をお願いいたします。
指導部長	<p>資料2をお願いいたします。「児童生徒の学力向上の取組」について説明させていただきます。</p> <p>初めに、平成31年4月18日に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果につきまして、小学校では国語が全国と同程度、算数は全国平均を上回っている結果。中学校では、国語・算数・英語すべての教科で全国平均を上回っている結果となっております。</p> <p>また、今回の調査で初めてパソコン端末を利用した、英語を話すことの調査がございましたけれども、福岡市においては全国を大きく上回る結果となっております。</p> <p>次に資料2ページの、教育委員会が現在行っている学力向上の取組について説明いたします。</p> <p>英語教育につきましては、小学校から中学校への系統的な英語指導を目指し、小学校3・4年生に対してゲストティーチャー、小学校5・6年生と中学校に配置しているネイティブスピーカーを活用しながら、活きた英語の学習に取り組んでおります。</p> <p>平成28年度から地域の方々の力を借りて、小学校3・4年生を対象に実施している、放課後自主学習やふれあい学び舎事業につきましては、当初35校から始まり、平成30年度からは市内すべての144校で実施しているところでございます。</p> <p>ICTの活用につきましては、令和元年度は小学校と高等学校、令和2年度は中学校と特別支援学校すべての普通教室にICTの環境を整備してまいります。</p> <p>また、教育用クラウドを構築しまして、令和2年2月から教員による自作教材など、これまで個別に活用してきた優れた教材を全市で共有し、活用していくこととしています。</p> <p>ICTの活用につきましては、プログラミングを含め、次の協議事項である、「福岡市の特色ある教育」で説明させていただきます。</p> <p>最後に、ティームティーチングや習熟度別学習によるきめ細かな指導を行うことにより、さらなる指導方法の工夫や改善を図り、児童生徒に対する基礎基本の確実な定着や個に応じた学習指導の展開に努めてまいります。</p> <p>今後の方向性につきましては、資料に示しているとおりにとなりますけれども、これまでの取組を今後も充実させることはもちろん、多様な学びをとおして、学力の向上を目指してまいります。</p> <p>児童・生徒の学力向上の取組については以上となります。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
企画調整部長	はい。それでは意見交換をお願いいたします。
高島市長	全国学力・学習状況調査の結果については、いい結果が出ているということで、教育委員会もしっかり取り組んでいただいたと思いますが、学校の

	<p>先生、子どもたちが本当に頑張ったのだらうと思います。</p> <p>特に今年度、いろいろある事業の中でも「ふれあい学び舎事業」に力を入れて、この事業を全校で実施するようになったということで、すごく期待をしていたわけですが、実際、本当にその来て欲しい子ども達が来てくれているのか、そして成果としてどうかというところを教えてくださいよろしいでしょうか。</p>
指導部長	<p>まず「ふれあい学び舎」の成果といたしましては、30年度全校で実施、実現して、子どもたちは喜んで参加しているというところがございます。その中で、特に参加している子どもたちの学力が着実に伸びてきているという結果が表れております。</p> <p>具体的には小学校3年生において、7月に実施しております福岡市独自の学習定着度調査の算数の問題を11月に同じものを実施したところ、7月の平均データの子どもの結果が11月においては、3年生で5ポイント向上しているという結果になっております。</p> <p>また、小学校4年生では同じように調査した結果、4.9ポイント向上しております、着実に子どもたちの力の伸びが見られているところでございます。</p> <p>また、6月に実施しております福岡市の生活習慣調査というものを、またさらに11月に再調査したところ、「自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した子どもたちの割合が4.2ポイント向上するなど、学習意欲の点でも向上が見られるということで、着実な成果をあげていると認識しております。以上です。</p>
高島市長	<p>予想以上の成果が出ているというのはすごくいいことだと思います。</p> <p>ところで今の話の中で子どもたちが「喜んで」参加しているというお話がございました。私たちの立場からすれば、是非これに参加をして欲しいと思うのですけれども、自分が子どもの頃でしたら、学校終わってまで勉強したくないよってというのが正直な気持ちでした。</p> <p>子どもたちが「喜んで」と表現したのは何に対して「喜んで」いるのでしょうか？</p>
指導部長	<p>子どもたちにとって、地域の方に個別に教えてもらえることで、分からなかったところが分かったという意見が多くございます。子どもたちは、残らされているというよりも、残って良いことがあると捉えているようで、しっかりと分かって帰れるということで、希望数が多いというふうに考えております。</p>
高島市長	<p>いいですね、なるほど。</p> <p>地域の方は、教え方がなかなか上手ということですかね。</p>
指導部長	<p>もう3年目になりまして、継続して関わっていただいている方もいらっしゃいます。また、教育委員会でも研修会を開き、教え方の留意点とかをお伝えしながら、いろんな子どもたちに関わってもらっているという状況で</p>

	ございます。
高島市長	例えば、逆に今後、もっと良くするためにこうしたほうが良いとか課題とか、そんな見えてきたことはありますか？
指導部長	先ほどの子どもたちが希望しているという話と裏表になるのですけれども、希望する子どもたちの受け入れについて、1回に学び舎の学習の中で人数制限しないといけない場合がございまして、参加したい子どもたちが参加できない状況が見られるということです。あとは学校からは実施回数を増やしてほしいという声も出ておりますので、それに応えていくなどの指導体制について工夫していく必要があると考えています。
高島市長	それは、例えば地域で教える方のご負担とかがあるから回数ができないということでしょうか。せっかく自分で学びたいとか自分の子どもだったらとても嬉しいことですので、どうぞどうぞと言いたいところですが、回数を制限しないといけない理由は何なんですか。
指導部長	週2回を原則としているところですがけれども、様々な学校のいろんな活動、行事との関係もございまして。 また、地域の方をお願いするにあたって、いま年間80回と回数を原則としていますけれども、さらにお願ひしないといけないといったところで、今は80回、週2回ということで考えているところでございます。
高島市長	それは平均的にどこの学校ももっとやってほしいというニーズがあるのでしょうか。それとも、学校によって偏っているのでしょうか。
指導部長	学校によっては、偏っているという捉え方をしております。すべての学校ではなくて、やはりその取組を充実させてきた学校ほどもっとやりたいという声があがっているという状況でして、すべての学校が全部2回、3回、4回ということではございません。ただし、そうやって増やしたい学校もみられるというのは、考えていかなければいけないと思います。
高島市長	その実施回数の課題というのは、予算上の対応で解消する話なのでしょうか？
指導部長	はい。
高島市長	分かりました。それではやりましょうよ。成果がでているのであれば新年度予算にあげていただけたら、私は大いに賛成したいと思います。 教育委員の皆さんのご意見がございましたらどうぞ。
菊池委員	左のページに全国の状況が載っていますね。 あの私としては、これからも英語教育はしっかりと予算をつけていただいたので、初の英語の試験で非常に良い結果がでたということで、しっかりと予算をつけて施策を打っていけば、成果が上がると思っております。 それからあの違う観点ですけども、この学力が全国平均より少し上回っているということで、満足していいのかという観点を持っています。と言いますのは、この学力調査が始まったのが2007年ですけども、そのあと2010年頃ですね。中学3年生のいわゆる都道府県ランキングがでま

	<p>したよね。その中で当てはめていくと第6位なんですね。非常にこう、高い順位だったということ。</p> <p>これはエビデンスであり、福岡市の子どもたちのポテンシャルがそこまであると認識しております。したがって、平均を上回っているということと、この資料のように一気にこう学力が上がりましたよ、みたいな、そういう取組をですね、新しい教育振興基本計画に基づいてやっていくべきじゃないかなと思っておりましたけれども、そういった意味ではふれあい学び舎は良かったと思います。けれども基本やっぱり、教師の指導力だと思うんですね。学校の先生が本当にいい授業をしたら学力が上がってきますよねと、そういったことに対する教育委員会の支援ですね、必要なと思います。</p> <p>もう1点はですね、学力について忘れてしまっはいけないのは、長期欠席者が福岡市結構ございまして、不登校とカウントされる小・中学生1,500人くらいいます。そのうち1,000人ぐらいが90日以上欠席になっていますので、やはりこの、学校に来られていない子どもたちに対する、例えばICTを活用した遠隔授業とかですね。なんかこう手だてとして、学力を付けてあげるっていう手だてが、今後必要になってくるのかなと考えております。</p> <p>以上です。</p>
高島市長	<p>今、最後におっしゃった長期欠席の子とか、もしくは長期じゃなくても短期でも学校欠席すると1日分、授業1回分飛んでしまうので、次の協議事項の中でもしかしたら話があるかもしれませんが、ICTの中でとにかくいちばん上手い先生の授業を録画して、ICTで観られると。むしろそっちのほうの方が分かるなんて言われないうように、各学校頑張りたいと思います。予備校とかもそうですが、いちばん教え方が上手い先生のビデオを観てなるほどと。もしくは違う教え方も観たほうが腑に落ちる場合もございまして。これは休んだ場合だけではなくて、どの子どもたちも例えば学校や家で予習復習の感覚で観てさらに理解を深めるという点でもICTの活用というのは結構できるのではないかと感じたりしています。</p> <p>せっかくこの流れですから次の協議事項である、ICT教育にいきましょうか。</p>
企画調整部長	2つ目の「福岡市の特色ある教育」について、説明をお願いします。
指導部長	<p>はい、それではスクリーンをお願いいたします。</p> <p>「福岡市の特色ある教育」のひとつとして、ICT教育及びプログラミング教育の今後について、ご説明させていただきます。</p> <p>今年度6月、福岡市教育委員会では、今後6年間の福岡市の教育の方向を示す「第2次福岡市教育振興基本計画」を策定いたしました。</p> <p>基本計画の中で、特に重視する3つの教育方法を「福岡スタイル」として示し、そのひとつに「ICTを活用した教育活動の充実」を掲げ、令和元</p>

年度には小学校と高等学校で、すべての普通教室に常設のプロジェクターとスクリーンを設置。指導者用タブレットPCの整備、併せて、無線LANの環境を整備してまいります。

令和2年度には中学校と特別支援学校で同じように環境を整備し、ICTを活用した授業を全面的に実施することとしております。

現在、4つの学校でこの「福岡スタイル」で示したICT環境を整備し、具体的な指導について研究を行っているところでございます。

また、教育専用の「Fukuoka TSUNAGARU Cloud」の中に授業に使える動画を準備し、来年2月から各学校でこれらの動画を活用して授業に使えるようにしてまいります。

この中には授業の在り方等も含めまして、先ほど市長からもご意見いただきました、休んでいる子ども達にも活用できる動画にも続けていきたいと考えているところでございます。

また、令和2年度から全面実施となる小学校の学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質や能力の育成を目標としており、その大きな特徴の一つとして、プログラミング教育の実施が示されております。

一般的にプログラミングと聞きますと、プログラミング言語をイメージされることがありますけれども、そうではなく、自分の意図した活動を実現させるためには動きや記号をどのように組み合わせたらよいか、どのように改善すればよいかといったこと考えるプログラミング的思考の育成が目標とされており、プログラミングの学習を通して、子ども達に論理的思考力を身につけさせてまいります。

このプログラミングの学習につきましては、新しく採択した教科書では、算数や理科の単元で取り扱われておりますが、総合的な学習の時間など、さまざまな教科で子どもたちにプログラミングの良さを味わわせながら、学習に取り組むようになっております。

それでは、プログラミング教育の実際について、来年度から使用する小学校の教科書をもとに説明させていただきます。

5年生の算数では、プログラミングによって正多角形を実際に描く学習を行ってまいります。

子どもたちは、命令ブロックを選んで組み合わせたり、ブロックの数値を変更したりしながら、ステージ上のキャラクターを動かすことができるソフトを使って学習していきます。

例えば、スクリーンのプログラミングでは、「前に3センチ進みながら直線にかく」の命令ブロックによってステージの左のキャラクターを前に3センチ進ませ直線を描かせます。

次に「90度左に回転する」の命令ブロックによって、キャラクターを90度回転させます。

次に「前に3センチ進みながら直線にかく」の命令ブロックによってキャ

ラクターを3センチ進ませ直線を描かせます。

子どもたちはこのように、命令ブロックを組み合わせ、試行錯誤しながら、論理的思考力を発揮して学習していきます。

それでは、本日は、市長、教育長をはじめ、教育委員の皆様にもプログラミングを体験していただきたいと思います。それでは、準備をいたしますので。

(準備)

キャラクターを動かして、1辺が3センチの正三角形を描くプログラミングとなります。

中央にある命令ブロックを右に動かし、ブロックを組み合わせしていきます。進む長さや回転する角度がポイントとなりますので、命令ブロックの中のいろいろな数字を打ち換えて、ブロックを組み合わせてください。

命令を作り終えたら、左の「実行する」のボタンを押すと命令が実行されます。

それでは、5分ほど自由にブロックを動かして、描いてみてください。

なお、スクリーンのほうには学習のイメージとなる動画を流しております。

(作業終了)

では、そろそろ時間になりましたので、終わりにしたいと思います。

このように子ども達は、キャラクターを意図した通りに動かすため、進む方向や角度、命令ブロックの組み合わせ方など、何度もやり直しをしながら命令を工夫することで、できたときの達成感やプログラミングの有用感を味わい、情報を適切に活用する力を身に付けていくと考えております。

次に、理科について説明いたします。

理科の学習では、6年生の電気の働きで、明るさセンサーを使って明るさを測り、暗い時だけスイッチに命令を送り、発光ダイオードに明かりをつけるような回路を、プログラミングを使って作ります。

ここでは明るさセンサーから無線で明るさの情報がタブレットに送られてきます。子ども達は、タブレット上で明るさセンサーから一定の明るさより暗くなったらスイッチを入れる、といったプログラミングを作ります。そして、実際にタブレットから暗くなった時にスイッチに命令が出されることによって、発光ダイオードを光らせることができます。

子どもたちはセンサーとパソコンやタブレットを使って、自分が意図した仕組みをつくることで、プログラミング的思考を身に付けることができます。

プログラミングは様々な可能性があります。算数や理科以外にも、総合的な学習の時間などいろいろな教科でも、子どもたちの問題解決力の育成に向けて取り組んでまいります。

このように令和2年度からの福岡市の教育は大きく変わります。

	<p>第2次福岡市教育振興基本計画のもと、新しく整備されたICTの環境を生かし、授業改善を図り、子どもたちにプログラミング的思考をはじめ、新しい時代に必要となる資質や能力を育成してまいります。</p> <p>以上で説明をおわります。</p>
企画調整部長	はい、それでは意見交換をお願いいたします。
高島市長	<p>はい。我々もプログラミングを体験させていただいて、非常に貴重な経験になったと思います。また、どういう形でプログラミングはできているのかという構造をですね、仕組み若しくは考え方、こういうその秩序でモノが動いているのだということを体験するということは、子どもたちにとっても非常に良い経験になると思います。教育していきながら子どもたちが巣立って行って、自分で自立して生きていくために、その、今後、エンジニアというものが日本の中でも非常に不足をしていくという事態になります。</p> <p>今、仕事というものがどんどん変わってきています。</p> <p>例えばちょっと私たちが小さい頃までは駅で切符の改札を切る人がいたわけですね。電話は、繋げる人が電話の向こうにいて、繋いでくれたわけですね。そういう仕事は今無いわけです。</p> <p>そういうように、いろんな技術の発達によって、今ある仕事がなくなったり、また新たなニーズが生まれる中で、こうしたエンジニア、プログラミング、人材というものはこれから大きく不足をしていくわけです。</p> <p>親がそうした仕事をしていない人が今ほとんどである以上、学校で、この分野に興味を持つ子どもたちが将来そういう選択をしていくっていう選択肢を作っていくうえでも、非常にプログラミングは大事な教育だというふうに思っております。</p> <p>どうでしょう皆さん、体験した感想を教えてくださいいただけます。</p>
町委員	<p>菊池先生と私の世代のプログラミングというと COBOL とか FORTRAN とか、そういう難しいやつでした。やっぱり今回のように楽しみながらできるというのは、非常に良いことではないかなと思います。</p> <p>ひとつ意見を言わせていただきます。</p> <p>TALIS といいますが、国際教員指導環境調査の文科省のデータを見ますとですね。我が国は先生方がですね、ICTを使った教育でまあある程度できるという人が2割ぐらいしかいないのです。OECD 48カ国、まあ調査は各国でされてましたけど。日本はブービー賞なんですね。だいたい平均が6割弱あるんです。</p> <p>そういう意味では、日本は相当遅れてましてね。先ほど市長が Society 5.0 の新しい時代に向けて日本がどうあるべきかという、ちょっと3分ほどお話をされたと思いますけれども。そういった部分で今からですね、この日本がICTの、特に福岡市も含めてどうやってこれを活用して、世界に負けないようなね、国づくりをしていくかというのは非常に大事なことだと</p>

	<p>思いますんで、この分野で子どもたちが興味を持ってやってくれる。特にあの文系理系、理系が好きな人。私なんかは体育会系ですけど。そういう部分ですね、理系にもうちょっと視点がいくような教育っていうのが大事じゃないかなと思います。</p>
高島市長	あの…
町委員	<p>あ、ちょっとすみません。</p> <p>去年から予算付けていただいて、ICTですね。遅ればせながら、今からぐっと福岡上がって行くと期待しております。</p> <p>ありがとうございました。</p>
高島市長	<p>実際に今、ICTの環境整備が先行してる4校では、どんな感じで行われているのか。そんな学校の様子を教えていただけたらと思います。</p>
指導部長	<p>実際に4校で取り組んでいる授業内容としましては、教科書の内容がデジタル化されたデジタル教科書を使って映像を流して授業を行うとか。</p> <p>また、先生方が自分たちで作った教材を共有しておりまして、サーバーにそれをストックすることによって活用するような取組を行っています。</p> <p>具体的な調査実績からは、ICTのその活用にどのくらいそのプロジェクター等を活用したかという調査をしましたところ、78.5%の授業で何らかの形でこのプロジェクター等を使って授業を行っているという状況になっております。</p> <p>また、子どもたちからは93%が「ICTを使った授業が楽しい」と回答があったり、教員も97%が「ICTの環境は授業に必要」と回答しているような状況でございまして、1月からの整備とそれで授業がどう変わるかということも自分たちも楽しみにしているところでございます。</p> <p>以上です。</p>
高島市長	<p>子どもが楽しいと言うのであればそれはそれで、興味を持ってくれているということで良いと思いますが。</p> <p>ICT、ただ単に教科書と同じものをスクリーンに映しただけだったら意味が無いわけであって、やっぱりそれでしかできない形の授業の工夫ということも心がけていただきたいと思います。それからあの、こうやって教育の内容とか、タブレットの内容とかはアップデートされる。と同時に先生もアップデートしなければいけないと思います。</p> <p>先生自体がもっと、親もですけど。親も先生も子ども以上にスマホを使いこなせて、自分で失敗して、それで学んでいくということがない子どもに教えることができないので、年齢で区切るのはよくないですが、年配の先生で例えば、私はもうこういうのはちょっと分からないとかいうような方には放課後学び舎ですね、しっかり使い方をマンツーマンで教えてあげるなど、ひとりも取り残さない先生のアップデートを是非していただければと思います。</p>
原委員	一言よろしいですか。

高島市長	どうぞ。
原委員	<p>私もちょっとICTで言わせていただきたいのですが、先ほどプログラミングをして、自分自身も体験してみて、これあの新学習指導要領でやっぱりその自分達で積極的に授業に関わるということが求められてる中で、すごく子どもたち自身も教えあったり、会話を通じてですね、授業で積極的に取り組める内容ではないのかなと思ってます。動画を福岡市で作って、使って配信されるということなので、ぜひ子どもたちの好奇心とかですね、知的な好奇心のところに火を付けていただきたいと思います。</p> <p>あと、いま市長がおっしゃったように、指導力のある先生の動画などのコンテンツに使われてですね。ノーベル賞の吉野さんの話ではないのですが、ローソクの話とかですね。ぜひ先生方にもそういうところを使って、意欲を持ったですね、内容のソフトの充実のほうを図っていただいて、子どもたちの好奇心を引き出して欲しい、すごくそういうところは期待してるんです。</p> <p>それと一緒にやっぱり先生方の働き方改革の中でのですね、その点をぜひ。あの何というか、使えるところは使っていただいて、時間をわりだしていただいてですね、ぜひ授業とかそういうところで力を発揮していただきたいというのがすごく強く希望いたします。よろしく願います。</p>
高島市長	<p>本来であればICTを使うということはそのフロー自体考えなければいけないし、変わらなければいけなくて基本的に教える工夫とかそのアップデートはその教科書を作るところが一気にまとめてして、学校の授業はどちらかというところを基本としながらもフォローしていく。さらに分からないところを教えていくってというような反転学習なんていうのもありますけれども。やり方は是非、アップデートで考えていただきたいと思います。</p> <p>また、あのトップの子というか、これはすごくこの分野得意だなんていう子がいたらですね、福岡市はあの最近、エンジニアカフェというものを作りまして。先日、あの休日にお邪魔をしてみますと、LINEを使ってプログラムをして実際の物を動かすみたいな、そういうプログラムに、おじさん達に混じって小学生の子どもも入って一緒にやっておりました。それも全然年齢に関係無く、興味がある人は誰でも参加できる環境がせっかく福岡市にもありますので、もし興味があれば、そんなところにも繋いでいくとかいうような形でどんどん伸びる子はどんどんさらに伸ばしていくようなことをしていただければと思います。</p> <p>では、次行きましょうか。</p>
企画調整部長	はい。3点目でございます。教育環境整備、学校環境の空調整備、についてでございます。説明をお願いします。
教育支援部長	それでは、資料4の「教育環境整備（学校施設の空調整備）」についてご

	<p>説明いたします。</p> <p>福岡市の小・中学校の空調整備状況でございますが、平成26から28年度の3年間で市内の全小・中学校の普通教室に空調整備を行いました。各学校の空調使用につきましては、一定の使用基準を設けていますが、その日の気温や児童生徒の実情に合わせ、学校長の判断による使用を認めているところでございます。</p> <p>実際の使用状況につきましては近年、夏の暑さが長期化していることもあり、早い学校では5月上旬に使用開始。使用終了は、遅い学校では10月上旬と長期にわたり使用されております。</p> <p>また、整備の効果といたしまして、学校からは、授業中の集中力が改善・向上した、暑さによる体調不良を訴える児童生徒が減少している、などの声があがっており、児童生徒が健康で安全な学校生活をおくることができていると考えております。</p> <p>次に資料の右側の特別教室です。</p> <p>特別教室には、図書室・音楽室・理科室などがございまして、空調の整備状況につきましては、円グラフに記載のとおりでございます。</p> <p>整備済みの教室は、具体的には小学校では図書室、パソコン教室、中学校は、音楽室、図書室、パソコン教室でございます。</p> <p>次に学校施設を取り巻く環境でございます。資料の左下をご覧ください。</p> <p>まず気象面ですが、近年、全国では毎年続く猛暑や命に関わるような災害級の大雨が頻発しております。また、世界的にも気温上昇が続くと将来予測がされている中で、福岡市でも100年あたりの年平均気温が上昇していたり、さらに真夏日も増加や長期化しています。</p> <p>その他、授業実施にあたり、夏季には猛暑のため特別教室である理科室での実験を控えたりするなど、学習面で様々な支障も出ています。</p> <p>さらには、学校の教室は地域防災計画において、高齢者や障がい者など、避難に際して配慮が必要な方々のための福祉避難室として位置付けられており、今後、災害発生時の避難所としての役割を果たすことも想定されているところでございます。</p> <p>最後に、右下の棒グラフでございます。</p> <p>これは文部科学省が行った全国の公立小中学校の空調整備状況調査の平成29年と令和元年を比較したのですが、全国的にも普通教室だけでなく特別教室の空調整備を行う都市が増えてきている状況となっております。</p> <p>資料の説明は以上でございます。</p>
企画調整部長	それでは意見交換をお願いします。
高島市長	<p>特別教室の方の話も出ましたが。</p> <p>普通教室に関しては全小中学校整備をして、早い段階で福岡市の場合取り組みましたので、ちょうど去年の猛暑のときには福岡市はすでに全ての学</p>

	<p>校で普通教室は整備できているということで良かったわけです。</p> <p>特別教室を、もし整備することになった場合の課題はどういうことがあるのでしょうか。</p>
星子教育長	これは私の方からお答えさせていただきます。
高島市長	何かこの場が予算陳情の場になっていませんか。はい、どうぞ。
星子教育長	<p>様々な課題がございまして、やはり現在でも授業に支障が出てるといことも間違いなく言えると思っております。</p> <p>特別教室で使用する場合はやっぱり、体調不良者を出さないというのが学校の原則でございまして、夏は扇風機とか、冬はストーブを実際に運んでいるところもございまして。</p> <p>また空調が実際整備されました普通教室のほうに道具を運んで特別の授業をやるっていうことも行ってます。</p> <p>これ実際、私が目の当たりにしたことなんですが、ある小学校に2月に視察に行ったときに、底冷えのする1階に理科室がございまして、そこで理科の授業をしてたんですが。教員もそれから子どもたちも厚着、マフラーやコート、手袋までして実際に授業してるっていうのを窓の外から見まして、やはり特別教室でもやっぱり厳しい環境で授業してるなっていうのは感じたところでございまして。</p>
高島市長	<p>はい、分かりました。</p> <p>実際に今の子どもたちは生まれたときからそもそも自宅に冷暖房があって当たり前前に生まれてきている子がほぼ90かなり後半ぐらいになっているというような状況の中、エアコンが無いのは学校だけみたいな人とかいる中で、異常気象の影響やまた災害時の避難所機能を兼ねている場合もありますので、調査結果を踏まえて、導入可能性の検討を進めていただければと思います。</p> <p>何かうまく乗せられたような気もしますが。</p> <p>他の委員さんはいかがですか。</p>
町委員	何でもいいですか？
高島市長	せっかくの場ですから、それ以外も含めてあれば、どうぞ。
菊池委員	<p>あの私のほうからは、あのもうちょっと期待するものとしてですね、クラウド。資料3の「Fukuoka TSUNAGARU Cloud」。これ今回学校の公開週間に合わせて、色々訪問したのですが、校長先生方がとても期待していると言われていまして。どのような内容が出てくるのかですね、楽しみなのですが。</p> <p>この前、中学校に行ったときにですね。あの、教室に入らない子どもがいて、でも保健室とか心の教室とか、そこにちゃんと座ってですね。礼儀正しくしていた子がいて。じっとしていてもったいないなと思ったんですね。</p> <p>そういう子どもたちに授業風景そのままこう、教室の風景を映したら、勉</p>

	<p>強できるんじゃないかと思いつくと思ったので。</p> <p>本当にこう、教室に入れない子どもたちとか学校に行けない子どもたちに対して、こういった授業の内容を提供する。全国のクラウドでやっていただきたいなと思います。以上です。</p>
高島市長	何か自由に、ほかにあれば。
武部委員	<p>すいません、失礼します。</p> <p>先ほどのプログラミングをやって、やらせていただいて。論理的思考ですね。A I とかはデータをたくさん使ってそれを論理的に組み合わせていろいろなものをどんどんやってくれるってということなんですけど。</p> <p>おそらく人間は、子どもたち、我々もですけど。論理的思考をしっかり身に着けて、荒唐無稽ではない発想力っていうものを。そこが多分人間の最後の砦だと思っていて、人間だから考える力があって、無から有を創り出せると思っているので、その根拠になる論理的思考力というものを身に着けるチャンスになるといいなというふうに思ってます。</p>
高島市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>いま例えばA I 的話出ましたが、自動翻訳とかですね。日本語から英語にするとか、いろいろそういうものも出てきています。</p> <p>ではグーグル翻訳とか使ったことありますでしょうか？</p> <p>ああいうものでこう入れたときに自分の意図することがちゃんと英訳されているのかということを見て、まだもうちょっとかなとかね、思ったりする人もいるかもしれません。</p> <p>だいたいそういう場合はですね、その人が入力した日本語の表現がよくないんですね。これはあくまでもどんな日本語を入れたら自分の意図が正しく翻訳されるかということ想像した日本語が使えれば、今の技術で十分翻訳できるのですが、そこを考えていなくて、自分の都合で日本語を入れてしまうとよくないということです。</p> <p>こうした海外の人でも分かる日本語とか、翻訳機でも翻訳できる日本語とか、こういうような発想が大事になってくるんですね。</p> <p>また、論理的な思考を考えるのは、これからの数学というような形で、証明とかなんですけれども。プログラミングって実はすごく論理的に物事をこう発想していく上で力になってくれると思います。</p> <p>ご自由な話で。はい、どうぞ。</p>
木本委員	<p>ひとつ関連して。</p> <p>学力の問題にも繋がってくるんですけども。全国学力状況調査、テストの点数だけで計れない部分で今、事務局のほうでも分析していただいているのが、福岡の子どもたちに記述の力がちょっと弱いとかですね、無回答の欄が多いという点数の裏側にある今の状況っていうのが見えてきています。</p> <p>ですから、子どもたちが表現をするっていうひとつの手段として書く力であったり、論理的思考力にやはり繋がってくる部分ですので、その辺は底</p>

	<p>上げっていうのをしっかり授業の中で子どもたちの学びの中で取り組んでいくっていうことをこれからやっていきたいというふうに考えています。</p>
高島市長	<p>記述力。確かにいま字書かないですもんね。自分を振り返ってパソコンで打ちますもんね。</p> <p>点数だけではなくその裏の部分をしっかり、その内容というところを今、お話いただいたこともご検討よろしくお願ひします。</p> <p>どうぞ。</p>
町委員	<p>最後にひとつだけ。</p> <p>今お話しあったように、パソコンを打たないんですね若い人。今は声入力で情報取ったりしてますんで。そのため、社会人になっていきなり会社に来て、パソコンでこれ入力しておいて言うと、叩ききらん子がいっぱいいます。</p> <p>だからやっぱり技術の進歩でそのぐらい変わるんだなということですが。先ほどらいあったように、文章力がですね、ものすごく不足しているのが今の現状ですから、ぜひ国語力をね、ちょっと高めていくっていうことが何においても基本ではないかなという感じがいたします。</p> <p>以上です。</p>
高島市長	<p>私も個人的に、個人的に思うのが、社会の授業でその首長のリコールとかはとても詳しく教えて、もっと教えるべきこととして、例えば地域の自治協議会とか民生委員、児童委員って何をしてるのかとか。街灯はどこの予算を使っているのか。</p> <p>街灯の予算は、多分多くの方が、税金でと言うと思うんですね。実は自治会費なんですね。</p> <p>こういう自治会とか自治協議会とか民生委員とか、たぶんその、社会との接点、政治との最初の接点っていうところである。実はとても身近なことが社会の授業で教えられていなくて、衆議院の定数とか参議院の定数を覚えるよりも大事なことの気がしてまして。そのような身近に自治会に入る人が少ないとか、民生委員のなり手が無いという話がすごく出てきているのですが、それはそもそも何をしているのかを知らないのではないかと、確かに教えてもらったことが無いんです。ですから、本当は子どもたちの頃から教育で習っておくと、実際そういう人にあつたときにこの人はどういう人なんだと、繋がるのかなと思います。</p> <p>これは、福岡市だけの話ではなくて、全国の社会科の授業としてこういうことを取り入れたらいいのではないかと。それが主権者教育だったり、政治っていう、政治とは言わなくても社会に参加をするっていうことが大事なかなって、個人的には思ったりもしています。</p> <p>ほか無ければ、事務局にお返ししますがよろしいでしょうか。</p>
星子教育長	一言お礼申し上げます。

	<p>市長、今日は本当にありがとうございました。市長からいただきました今日のお話やお考えを、それを基に福岡市の子どもたちのために、教育委員会一丸となって、これから施策に対し奮闘し、さらに加速してまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>企画調整部長</p>	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>これで本日の議事を終了したいと思います。特にその他ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>ではこれもちまして、令和元年度福岡市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。</p>